

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

7月特別上映会

ブック交換も
実施します

第36個故事 TAIPEI EXCHANGES

台北カフェ・ストーリー



日時・会場

2013年7月27日(土)
ベルブホール

(多摩市立永山公民館)

(ベルブ永山 5F・京王永山駅・
小田急永山駅下車徒歩約2分)

— 企画者からのコメント —

一般的に台湾映画のイメージといえば、おっとりした人々、南の国の明るい光、素直なストーリー展開といったものが挙げられるでしょう。この作品もいつもの台湾映画の王道を行く作品です。ファンは特にこの映画の良さを隅々まで味わうことができるでしょうし、今まで意識して観てこなかった方々もその魅力に気がつくでしょう。

主演のグイ・ルンメイは名作『藍色夏恋』でデビューしました。不器用で損な役回りをしてしまう、おっとりした姉を演じています。妹役のリン・チェンシーはこの作品が映画初出演ですが、調子よくて上手に立ち回る妹をクールに演じています。

監督のシアオ・ヤーチュンは、今作の製作総指揮をしている台湾の名匠ホウ・シャオシェンの助監督の経験もある、次の世代を担う新鋭です。大学で美術を専攻しただけあって、一つ一つのシーンが写真集のように綺麗です。

これほどの優秀なスタッフが集結した作品ですから、表面的なオシャレな映画に終わってしまうのではなく、メインテーマとして「価値観の交換」がしっかり描かれています。登場人物は、未知の経験によって、いままでとは異なる考え方、生き方を見つけます。

自分を閉じ込めていた殻が「物々交換」という手段を通して、静かに破れていく、その解放感をさわやかに描いた作品です。(加藤)

スケジュール

- 1 11:00 — 12:21
- 2 13:30 — 14:51
- 3 15:30 — 16:51
- 4 17:30 — 18:51

*全席自由席・各回入替制です。
*開場は各回 15 分前です。
*スケジュールは変更になる場合があります。

チケット

前売: 大人(中学生以上) 1,000円
当日: 大人(中学生以上) 1,200円
こども(子ども4~12歳) 600円

*支援会員、障がい者と付添いの方1名は当日600円です。



現在、フィレンツェから沖縄まで 25 の都市で開催されています。

自分の好きな本、大事にしている、でも誰かに読んでほしい…。そのような本のブックトークをして、他の参加者の気になる本と自分の本を交換するというイベントです。

今回、『台北カフェ・ストーリー』という映画の中核を担う物々交換を実際にやってみよう！！

ということで始めたこの企画。いろいろ制限があるため、実際に参加者同士のブックトークはできませんが、想いの丈をぶつけられるように名刺サイズのメッセージカードを用意しました。

限られた枠の中で伝えたい言葉を吟味する。映画ともリンクしている大事な要素の1つ、【自分の物語】がなければ自分の好きなこと、惹かれたポイントを言葉にはできないですね。改めて自身を見つめ直し、そして、新たな発見の場となりますように！当日、会場でスタッフ一同心よりお待ちしております。

映画祭スタッフがブック交換メッセージカードを書きました！名刺サイズに収まりきらないほどボリュームたっぷりですが（笑）、実際に参加されない方も参加したつもりでお楽しみください。

「ベラミ」

（モーパッサン著・中村佳子訳 / 角川書店）

「ベラミ」とは麗しの君という意味。女達からベラミと呼ばれるモテ男デュロワが非道の限りを尽くして自分の野望と欲望を満たす物語。19世紀末のパリが舞台。時代を経ても変わらない男女の関係が、新訳によって鮮やかに浮かび上がります。

ベラミのあまりのモテっぷりと調子に乗りに腹を立てながらも、痛快に感じるところもあり、自分の中の倫理観が試されているようでもあり…。

中盤に突如現れる深い谷底のような死の影が、全体に深みを与えていて、ラストシーンをどう読み解くかのヒントになると思います。ラストをどう思った？と語り合いたくなる一冊です。

（黒川）

「黒い家」（貴志祐介著 / 角川書店）

昨年「悪の教典」が公開、「鍵のかかった部屋」もドラマ化され、再び世の話題をさらった貴志祐介。彼の作品に共通するのは人間そのものの恐怖。妖怪や超常現象を描かずとも恐怖を描ける手法は、達人の域に達している。第4回日本ホラー小説大賞を受賞した本作はまさに彼の真骨頂であり、サイコホラー好きな僕の原点でもある。日韓双方で映画化されていることが、国境をも越える「人間の恐怖」を巧みに描いた証拠である。

（橋口）

『TaoZen 瞑想エクササイズ』

（大内雅弘著 / 青春出版社）

この本の著書である大内雅弘さんは、元々オシャレなエグゼクティブプロデューサーで、大学時代からヨガの修行をし、ニューヨーク時代にはタオのマスターであるマンタック・チアやジェット・リーの師匠でもあるリー・ジュン・ファンにも師事していた、面白い経歴の持ち主です。そして、世界中でワークショップを行うパワフルな方です。

気功・太極拳というあのブルース・リーが着ているようなカンフーを着て皆で同じ動きをするイメージがあると思いますが、大内さんの気功・太極拳は、ジーパンとTシャツというラフな服装で行う、非常にとっかかりやすいものです。そして、何より動きが美しい。（この、美しい動きがすぐにできるわけではないけれど…。）その美しく、

そしてオシャレなエッセンスを含んだパワフルなタオの叡智を、初心者でもお手軽に試すことができるのが、この本の魅力です。それでいてしっかり効果があります。効果は人それぞれ違うので、試して、いっぱい感じて欲しいです。

最後に、この本に出会う方にとってこの本が、心と向き合うことでしなやかで力強い自分を発見できるということ、そして人生という長い旅路の中にも安心感があるということを知るきっかけになれば…。

I hope you'll be able to feel inner smile.

（田名辺）

「死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発の500日」

（門田隆将著 / PHP 研究所）

この本は、特定の立場の意見表明を目的とした内容ではありません。ですが、原子力発電所の使用の是非とは別に、あの時「死」を意識しながら、最悪の事態を防ぐためボロボロになって職責を全うした人々がいた、という事実は知るべきではないかと思います。

この本には、いくつも強烈な印象を残す箇所があります。その一つに、吉田所長が最少の人員を残して全員退避の命令を出した後、残りの幹部が円卓に集合した時の描写です。既に覚悟を決めていたのでしょうか、その様子に悲壮感はなく静かに座っていたそうです。白い防護服を着ていたため、まるで死に装束をまとっているようだった、とも語られています。吉田元所長のご冥福をお祈りします。

（加藤）

6月8日（土）に開催したTAMA映画フォーラム特別上映会では、映画『モンサントの不自然な食べもの』の上映と、料理家の枝元なほみさん、warmerwarmerの高橋一也さんのトークショーを行いました。

『モンサントの不自然な食べもの』は、遺伝子組み換え作物市場の世界シェア90%を誇るグローバル企業・モンサント社の歴史や実態を、証言・取材に基づいて描くドキュメンタリー作品です。食に関心のある方をはじめ、リピーターの方や、次回自主上映会を開催しようと考えている方など、本当に老若男女たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございます。

上映の前後にお待ちいただくロビーでは、急遽トークゲストの高橋さんがお持ちくださったダイコンやハウレンソウなど10種類程の在来種や個来種を展示！



なかなか目にすることができないお野菜の種たちを直接見たり手に触れたりもできる、新しい体験でした。

1回目上映後の、枝元さん×高橋さんのトーク「これからの食とわたしたち」では、食をはじめりとした、これから生きるための大きなことをお聞き出来たように感じました。まずは隣の人に笑いかけること。多様性社会を受け入れること。そして、縦糸を紡ぐ横糸のような動き方がこれからは必要なのだと。

そして2回目の上映後の「先祖から受け継いで来た日本の種」では、高橋さんがwarmerwarmerで行っている活動や、今後取り組んでいくことなどについてお話いただきました。質問コーナーでも、いただいたご質問から広がるお話がたくさんありました。



枝元なほみさん（中央）高橋一也さん（右）

『モンサントの不自然な食べもの』を観て、皆さんは一体どのようなことを感じたのか、とても気になります。

食に関する問題は、日本でも世界でも遺伝子組み換え以外にもまだまだたくさんありますが、今日も明日もこれからも、やはり食事は美味しく楽しく生き生きと。そして安心・安全なものであって欲しいと思います。（矢部）



『かしこい狗は、吠えずに笑う』 劇場公開記念鑑賞ツアーレポート

昨年度の第13回TAMA NEW WAVEコンペティションでグランプリに選ばれた、渡部亮平監督の『かしこい狗は、吠えずに笑う』が2013年6月22日～28日までオーデトリウム渋谷にて劇場公開されました。

TNW部会では、6/28（金）の最終日に『かしこい狗は、吠えずに笑う』鑑賞ツアーを組んで11人で会場にお伺いしてきました。会場は立ち見のお客様が出るほどの大盛況ぶりでした。レイトショーにも関わらず、他の日も連日ほとんど満員だったとのこと。

久しぶりに大画面で観た『かしこい狗』はやはり素晴らしかったです。mimpi*βさん、岡村いずみさんを始めとする役者さんの演技、渡部監督の緻密な映画作りに魅せられました。何度見ても、毎回ハラハラドキドキさせられてしまいます……。

上映後のトークショーも渡部監督、mimpi*βさん、岡村いずみさんの撮影秘話で会場がとても盛り上がりしました。すでに8月3日～9日にオーデトリウム渋谷にてアンコール上映も決定しています。まだ観ていない方はもちろん、リピーターの方もぜひ劇場へお運び下さい！お得なリピーター割引なども予定されているようです。詳細は下記のホームページかツイッターにてご確認ください。（谷口）

HP: <http://kashikoi111.web.fc2.com/> Twitter: @kashikoi111

お知らせ コーナー

次回特別上映会は 8月31日(土) 会場：ベルブホール

『犬と猫と人間と2 動物たちの大震災』(104分/監督：宍戸大裕)

- ① 10:30～② 13:00～ ※上映後監督のトークあり
③ 16:30～ ※上映後監督のトークあり

7/27(土) チケット発売開始

本作は、東日本大震災の被災地である宮城と福島で懸命に生きる動物たちと彼らを救おうと奮闘する人々の、震災直後から約600日間の記録です。「いのち」とは? 「ともに生きる」とは? 「忘れない」とは? 「支援」とは? と様々に問いかけてきます。



© 宍戸大裕

第23回映画祭TAMA CINEMA FORUM

今年の映画祭は11月23日(土・祝)から12月1日(日)まで開催予定です。

現在上映作品の選定が、大詰めを迎えようとしています。バラエティ豊かな作品とゲストにご期待ください。

そして第5回を迎える日本で一番早い(!?) TAMA 映画賞は、どんな作品・受賞者に送られるのか。皆様、どうぞお楽しみに!

映画祭新実行委員を募集します

映画好きの方、イベント好きの方、ぜひ映画祭実行委員として映画祭の運営に参加してみませんか。ご希望の方には個別で説明会を実施いたしますので、事務局にお問い合わせください。

たまシネマ隊を募集します

実行委員としての活動は難しいけれど、映画祭の期間のみならお手伝いしたいという方は、たまシネマ隊としてぜひご参加ください。

たまシネマ隊の募集説明会は9月頃から行います。詳細は後日ホームページの方で発表いたします。

支援会員制度のお願い

“実行委員やたまシネマ隊として参加するのは難しいけれどTAMA映画フォーラムを応援したい”

そんな方はぜひ「支援会員」としてとしての応援をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員]

一口1000円 ご協力いただいた方は、映画祭パンフレットの贈呈などの特典もございます。

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会
(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

こちらもご利用ください ▼

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org/

@tamaeiga (最新情報をフォロー) www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)